

順天堂大学医学部 附属静岡病院



- 開設 昭和42年
- 病床数 633床
- 病床稼働率 91.2%
- 職員数 1,480名
- 常勤医師数 274名
- うち指導医数 84名
- うち研修医数 53名 (R05年度)
- 患者数 556.6名/日 (入院)
1,739.1名/日 (外来)
- 救急患者数 12,926人
- 手術件数 8,798件
- 分娩件数 807件



病院の概要（2022年度）

	病院全体	うち小児科	うち新生児科	うち産婦人科
病床数	633床	10床	30床	51床
医師数	274人	8人	9人	11人
研修医数	47人	0～3人	0～2人	0～4人
年間入院患者数 (実患者数)	16,598人	592人	376人	2,105人
年間入院患者数 (入院延べ患者数)	203,153人	3,529人	9,357人	16,407人
指導医数	84人	3人	1人	5人
救急受入件数	12,926件	1,172件	189件	955件
分娩件数	807件	—	—	807件
母体搬送件数	124件	—	—	124件
産婦人科手術件数	748件	—	—	748件

順天堂大学静岡病院 初期臨床研修医プログラム

基本プログラム（定員30名）

【1年次】												【2年次】											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科系						救急医療			選択科	必修科		選択科						地域医療	必修科		選択科		

- ・内科（呼吸器内科、腎臓内科、膠原病・リウマチ内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科）より6科を選択し、各1ヶ月研修
- ・2年目は1ヶ月毎に自由に研修科を選択可能、自由度の高い理想のローテーションを実現

産婦人科・新生児科・小児科プログラム（定員4名）

【1年次】												【2年次】											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
必修科		内科系			救急診療科		周産期	内科系			麻酔科	必修科		選択科				地域医療	選択科				

- ・本人が希望すれば、周産期医療に係る診療科（産科・新生児科・小児科）を通常プログラムよりも多く選択することができます。当院のプログラムは産科で妊娠・分娩について経験し、その後出生した新生児の管理も経験し、さらには小児科まで連続して研修を行うことにより、周産期医療を広い視野から学ぶことができます。研修内容も後期研修に近いプログラムを組んでいます。
- ・小児科、新生児科が独立しており、通常プログラムよりも小児科および新生児科のプログラムを重点的に研修する。
- ・2年目は希望科を中心に最大8ヶ月は研修協力病院等で研修が可能

待遇について

- ◆給与 1年目・・・月額 **34万**（年額408万）
2年目・・・月額 **38万**（年額456万）
（住宅手当別、時間外手当別）
- ◆当直代 月3～4回 救急外来当直、科当直（希望科を申請）
- ◆社会・労働保険加入（共済年金、健康・雇用・労災保険）
- ◆有給休暇 30日（R1;10日、R2;20日）
- ◆夏季休暇 5日



産婦人科・新生児科・小児科プログラム 進路状況（2012～2017）

産婦人科

		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		計
		研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	
基本プログラム	順天	10	1	13	0	16	0	20	0	19	0	13	0	18	0	22	0	25	0	24	0	22	-	28	-	1
	外部		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
周産期プログラム	順天	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	4	1	0	0	1	-	2	-	2
	外部		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	

新生児科・小児科

		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		計
		研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	研修医数	入局者	
基本プログラム	順天	10	0	13	0	16	0	20	1	19	1	13	0	18	0	22	0	25	0	24	0	22	-	28	-	2
	外部		0		1		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	
周産期プログラム	順天	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		1	0	4	0	0	0	1	-	2	-	0
	外部		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	

◎当院の特徴として、外科系に進路を希望する初期研修医が多く、周産期プログラムを希望する初期研修医も、外科系の科との選択を迷っていることが多い。また、最終的に周産期科を選択しない場合も多いため、指導医としては周産期を志してほしい気持ちがあるが、初期臨床研修医が描く将来の医師像に沿った選択をしてほしいと思っている。

産科・小児科プログラムの意義・効果についての認識

(産婦人科) 全国的に（特に地方で）産科医、新生児科医、小児科医が不足する中、魅力のあるプログラムを提供することで、将来周産期医療を志望する医師が増えることが一番の意義と考えます。また、指導医、研修医ともよりよい周産期医療を提供したいという同じ目標を共有できることから、熱意ある指導のもと充実した研修が可能となり、後期研修医に近い経験を得られることがメリットと思います。

(小児科) 周産期を希望する若手医師を早期に拾い上げて、幅広く症例を経験させることは意義のあることと思われる。一方で、初期臨床研修の真の目的である幅広い診療科を経験させ、地域差なく患者が全ての科に精通した総合医を育成するためにも、成人診療科や外科、マイナー科の経験も十分させることも必要と思われる。

産科・小児科プログラムの設置を義務付けることについての見解

(産婦人科) 周産期医療に従事する医師の深刻な不足を考えると、産科・小児科プログラムを設置することは意義のあることだと思います。義務化するかどうかは、その地域や病院の事情もあると思いますので今後議論が必要だと思います。

(小児科) 初期研修医の段階で、減少する周産期医療に携わる診療科を希望する医師が増えることは、将来の周産期医療にとって期待できる。しかし、臨床研修病院の特性によっては、小児科医の慢性的な不足や医療ソースが十分でない研修病院もあることが考えられ、研修医指導まで十分に行えない可能性もある。周産期プログラムを配置できるかどうかは、病院の規模や小児科医確保のバックグラウンドを十分に評価する必要があると思われる。